

インドのラジャギリ病院と交流協定を締結しました

平成29年4月10日、井川幹夫病院長、山口修平医学部長、小林祥泰前学長が、インドのケララ州にあるラジャギリ病院を訪問し、当院とラジャギリ病院との病院間交流協定を締結しました。

この協定の締結は、平成28年11月にラジャギリ病院のFr. Johnson Vazhappilly病院長が本学及び附属病院を視察し、また、平成29年1月に山口修平医学部長がラジャギリ病院を訪問したうえで協議した結果、決定したものです。

今後、高度外傷センターの医師、研究者などの幅広い交流を通じて関係を深めることができ、国際共同研究の推進などにより、島根大学の国際性がさらに高まることが期待されます。



協定書に署名する井川病院長、ラジャギリ病院Fr. Johnson Vazhappilly病院長、山口医学部長



交流協定の締結を伝える現地の新聞



協定書



ラジャギリ病院外観

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

6月15日～7月14日

対象者： **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
6/15(木)	9:30～11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟 3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学
6/16(金)	15:00～16:00	誰でも参加出来る糖尿病教室 ①「聞いてみよう。糖尿病検査 ～血を出さなくても血糖値がわかる!～」 ②「知って納得!続ける運動」	外来中央診療棟 3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
6/29(木)	19:00～	第13回島根県整形外科医会研修会	ホテル一畑 1階サンシャインホール	医療 本学	島根県整形外科医会/ 株 帯人ファーマ/ 株 大正富山医薬品
7/6(木)	18:15～20:30	第21回しまね手の外科・末梢神経セミナー	ホテル一畑	医療 本学	整形外科学教室

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・ 形成外科を設置しました
- ・ 気管支鏡(呼吸器内視鏡)検査について
- ・ インドのラジャギリ病院と交流協定を締結しました
- ・ 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

形成外科を設置しました

形成外科は、先天奇形、外傷・熱傷・腫瘍切除後の皮膚・軟部組織の欠損などにおける皮膚・軟部組織の外科的再建を担当する診療科で、その診療には高度の専門性が要求されます。その特性から皮膚科、小児科をはじめ外科系診療科等との緊密な連携が必要です。当院には開院以後形成外科の設置がなく、これまで皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科口腔外科、整形外科等で個別に対応してまいりました。平成28年4月から形成外科専門医の林田健志医師を皮膚科講師として採用し、形成外科の診療に当たっておりましたが、平成29年6月より、形成外科診療科として診療を開始いたしました。当院形成外科で対応する疾患は以下のような疾患です。

- 皮膚腫瘍・軟部腫瘍(脂肪腫など)
- 褥瘡、熱傷、難治性の皮膚潰瘍
- 乳房の形態異常
- 顔面外傷(顔面骨骨折、皮膚軟部組織の損傷など)
- 顔面の異常(顔面神経麻痺、眼瞼下垂症などのまぶたの疾患)
- 先天異常(口唇裂、多指症、臍ヘルニア、小耳症など)
- 手指の外傷(指神経・指動脈断裂、皮膚欠損など)
- リンパ浮腫
- 血管腫・アザ
- その他、体表に関するすべての疾患

該当する患者さんがおられましたら、ぜひ当院へご紹介いただきますようお願いいたします。

★ 形成外科診察日

毎週月曜日 9時～12時
毎週火曜日 9時～12時

問合せ先 形成外科外来 TEL:0853-20-2382

予約 地域医療連携センター TEL:0853-20-2061

皮膚科 診療科長 もりた えいしん 森田 栄伸
形成外科 診療科長 はやしだ けんじ 林田 健志



治療例1 先天性小耳症の治療例
上図：治療前、下図：軟骨移植術後



治療例2：指尖部の切断の治療例 左図：治療前、右図：再建術後

気管支鏡(呼吸器内視鏡)検査について

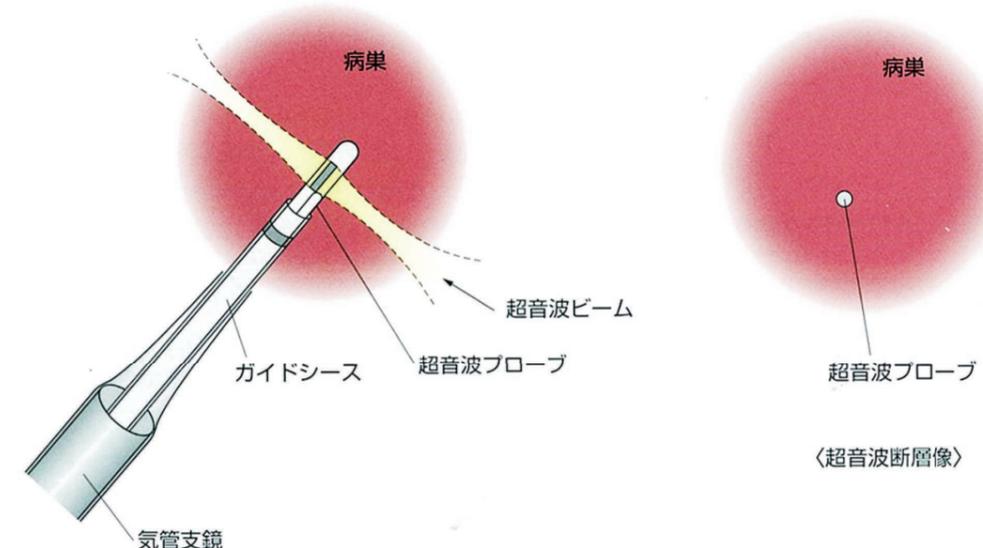
医療安全管理部 副部長 くりもと のりあき 栗本 典昭

近年の肺癌を中心とする呼吸器疾患の増加に対応するため、気管支鏡(呼吸器内視鏡)検査の需要が増えつつあります。肺癌においては、中枢側の気道から発生する扁平上皮癌・小細胞癌等よりも末梢肺に生じる腺癌の増加が顕著です。末梢肺病変を診断するため、末梢肺の気管支まで誘導できる細径気管支鏡(直径4mm)と、気管支内腔から行う気管腔内超音波断層法(Endobronchial Ultrasonography: EBUS)が普及してきております。EBUSを用いることで、空気の多い肺実質内に存在する病変を検出する事ができ、気管支鏡検査中に病変の位置を決めるのに大きな威力を発揮します。私は1994年に国内でいち早くEBUS研究、技術開発を開始し、多くの症例を経験し、先駆者として国内外の多くの医師に教育・普及を行ってまいりました。1990年代後半から、細径超音波プローブの周りにガイドシースという鞘を被せて、経気管支鏡の鉗子口から挿入し、プローブで病変を描出し病変に到達したことを確認後、ガイドシースを病変内に留置、ガイドシースを経由にて細胞組織を採ってくる手技(ガイドシース法)の技術開発を行い、ガイドシース法は国内外に広く普及してきております。また、CT画像から肺末梢病変に到達し得る気管支の経路を同定する“枝読み”術の普及にも、尽力してきております。

また、気管支壁外の病変(多くはリンパ節)を以前は画像のガイドなしで穿刺していましたが、EBUSで気管支壁外の病変を描出し穿刺針をリアルタイムに見ながら針生検する手技も多くの症例で経験させていただき、現在では径5mm前後のリンパ節も穿刺することが可能になってきております。

より安全で、早急に確定診断できる気管支鏡検査を行っていく所存でありますので、何卒よろしくお願いたします。

図 ガイドシース法 (栗本典昭、森田克彦：気管支鏡“枝読み”術. 医学書院, 2015より引用)





ご報告



ご報告

専従薬剤師から見た医療安全について

医療安全管理部 専従薬剤師 とい のりお
土井 教雄

一般的に病院内で発生するインシデントの3~4割が医薬品に関連したものとされており、当院においても同様の状況にあります。その中には持参薬に関するものから、処方時に発生するもの、調剤や注射薬調製時に発生するもの、さらには患者さんへ与薬する段階のものなどがあります。また、転倒・転落においても医薬品が影響したと考えられる事例があり、医薬品に関連したインシデントはあらゆる場面で発生する可能性があることを十分認識しておくことが重要です。

処方時に発生する可能性があるインシデントとして当院における疑義照会の内容を分析すると(表)、用法・用量に関するものが最も多く、その他に同種・同効薬の重複、服用・投与部位コメント不備などがあります。また、件数は少ないものの重篤な有害事象が起こる危険性のある投与禁忌の事例もあり注意が必要です。

今後は、医薬品に関連したインシデントはもちろんのこと、それ以外についても薬剤師の視点で病院全体を俯瞰し、医療安全に取り組んでいきたいと思っております。

●表 薬剤師の処方鑑査により発見されたインシデント事例

項目	具体的な事例
投与禁忌	・ 重篤な腎機能障害患者さんへは禁忌である薬剤の処方
同種・同効薬の重複	・ 当院他科、他院との重複 ※特に多いのは PPI, H ₂ -blocker, NSAIDs, 眠剤, 下剤
用法・用量	・ 1回量と1日量の間違い ・ 漸増投与が必要な薬剤を漸増せずに処方
服用・部位コメント不備	・ インスリンの指示用量間違い ・ 投与部位(左・右)の間違い
投与日数	・ 週1回、月1回内服する薬剤を毎日処方 ・ 隔日、指定日のみ服用する薬剤を毎日処方
その他	・ 抜歯予定患者さんへのビスホスホネート系薬剤の処方



入院中の子どもたちのために「こどもの日花火大会」が行われました

5月5日こどもの日、出雲市の神戸川の中洲から打ち上げられた花火が、春の夜空を美しく彩り、入院中の子どもたちを明るく照らしました。

「こどもの日花火大会」は、5月の連休に自宅に帰れない当院の小児入院患者さんとそのご家族を励まそうと、花火師 多々納恒宏さんらのボランティアグループ「こどもの日花火の会」が、11年前から毎年開催しているものです。

当初は、こどもの日にちなみ55発の打ち上げでしたが、年々、地域に知られるようになり、市民の寄付や募金などの支援も受けて、今年は250発が打ち上げられました。

夜8時、小児病棟6階プレイルームに集まった子どもたちは、花火が打ち上げられると、その迫力に息をのみ、最後の連発には歓声を上げていました。

15分間の楽しいひとときは瞬間に過ぎました。神戸川側から送られた終了の合図に、病棟の子どもたちからは、懐中電灯の光で「ありがとう」の気持ちを伝えました。



花火を楽しむ小児患者さんとそのご家族





ご報告

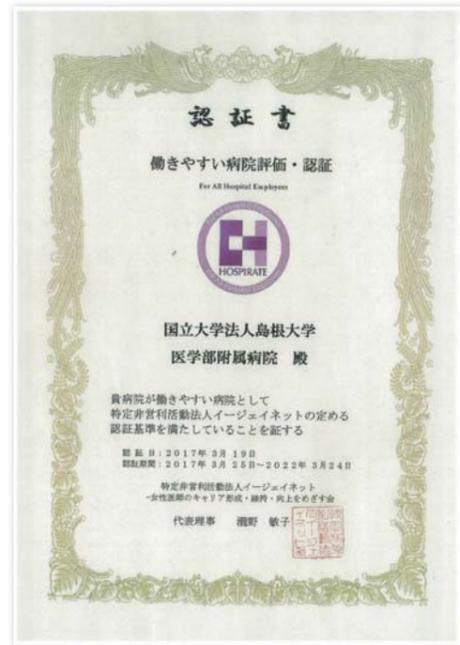


働きやすい病院評価 ～すべての医療従事者の両立支援をめざして～ の認証を更新しました

WLB支援室 室長 かんだ まりこ
神田 真理子

「働きやすい病院評価」の認証更新審査を平成28年12月14日に受審し、平成29年3月25日から平成34年3月24日までの認証を取得しました。「働きやすい病院評価～すべての医療従事者の両立支援をめざして～」は、病院の両立支援制度や働きやすい環境づくり・取り組みについてサーベイヤーにより書類審査・現地審査があり、評価基準をクリアすると「すべての医療従事者にやさしい病院」としてNPO法人イージェイネットから認証されます。良好な職場環境は、診療レベルの向上や医療安全、患者サービスの向上にもつながっていきます。

当院は、職員の仕事と家庭の両立を支援する次世代育成支援事業計画、職員全員が働きやすい環境を整備し、男女共同参画を推進しています。初回認証された平成19年度の第1ステップ「女性スタッフ支援室」設立から、平成20年度には対象を女性に限らず「ワークライフバランス支援室」として発展的に改組した第2ステップを経て、今回はフレキシブルな勤務形態の導入や各種支援制度の充実や丁寧なメンタルサポート、パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS®)看護提供体制により労働環境改善が図れ、職員のワークライフバランス推進と離職率低下につながったことなど、さらに取り組みを深化させ、職員の両立支援を積極的に行っていることが評価されました。



ご報告



出雲市民フォーラム

「島根大学病院の今と最新治療」を開催しました

5月21日(日)に、当院が主催する出雲市民フォーラム「島根大学病院の今と最新治療」を臨床講義棟1階臨床小講堂で開催いたしました。

このフォーラムは、日ごろからお世話になっている出雲市民の方々に当院の今と最新治療を知っていただき、健康の維持に役立てていただきたいとの思いで計画したものです。

当日は、100名を超える方々にご来場いただき、それぞれの最新治療に耳を傾けておられました。参加者からは、「とてもわかりやすく大変勉強になりました。今後、また参加させていただきたいと思いました。」「島根大学病院が高度に進んでいることを認識し、安心しました。」などの感想をいただきました。

このフォーラムは、今後も継続的に開催する予定です。



講座内容



脳卒中は
時間との戦い!

脳神経外科
教授 秋山 恭彦



心筋梗塞で
命を落とさない
ために

循環器内科
教授 田邊 一明



命を守ります!
外傷救命のスペシャリスト
高度外傷センター

高度外傷センター
センター長 渡部 広明





お知らせ



ハイケアユニット(HCU)の設置について

ハイケアユニット管理部 部長 渡部 広明
わたなべ ひろあき

当院では急増する重症患者さんの管理体制を強化するため、平成29年4月よりハイケアユニット(HCU)を設置し、ハイケアユニット(HCU)管理部を発足いたしました。これまで重症患者さんは集中治療部を中心に集中治療室(ICU)での治療を行い、救急搬送後の緊急入院を必要とする患者さんは救命救急センター第1ユニットおよび第2ユニットにおいて入院治療を行ってまいりました。しかし、近年の重症救急搬送件数増加にともなってICUの病床確保が一つの課題となっております。今回HCUを設置することにより、ICUや救命病棟の病床を確保し、確実に重症患者さんをお受けできる体制を構築しました。

また一般病棟において急変した患者さんを収容して重症管理を行うことも可能となりました。4月のHCU収容患者数は191名で稼働率は81.3%でした。ICUとHCUが連携して当院の重症部門を支える体制を確立し、各医療機関の皆様からのご紹介に最大限お応えできる体制を構築して参ります。引き続きよろしくお願い申し上げます。



お知らせ



前眼部三次元画像解析が先進医療に認定されました

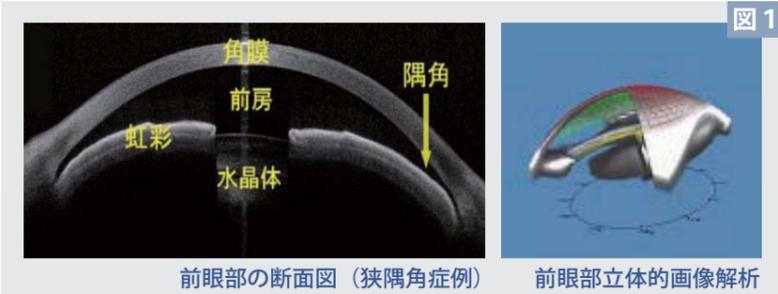
眼科 助教 高井 保幸
たかい やすゆき

現在、眼科疾患を診断するためには、検眼鏡による前眼部および眼底検査が必須となります。所見の判断は観察者の主観に左右される面もあり、その所見を広く第3者にも客観的情報として共有する手段として、前眼部および眼底カメラ撮影が従来の方法でした。しかしながら、これらの方法では、眼球および眼底表面上に現れている変化を観察することができるだけで、見えているものの立体的構造はわかりませんでした。また、角膜混濁があれば、それより後ろ側の観察ができず、診断精度に限界がありました。前眼部三次元画像解析により、これまでの眼科的検査では行えなかった、角膜、隅角、虹彩などの立体的な断層面の観察(図1)や角膜混濁が存在しても眼球内部の観察が詳細に出来るようになります。

また、従来の機器では解析が困難であった不正角膜乱視、円錐角膜などの詳細な前眼部光学的特性を数値化して解析できるようになります(図2)。

前眼部三次元画像解析により、従来の検査法では評価が困難であった患者の角膜、隅角、虹彩などの断層面の観察や立体構造の数値的解析を行い、診断精度の向上および術前のより詳細な状態把握による術後予後の改善が期待できます。

前眼部三次元画像解析は、厚生労働省より先進医療として承認されており、当院も先進医療届出を行い施設認定を受けています。該当の患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介ください。



前眼部の断面図(狭隅角症例) 前眼部立体的画像解析



角膜の数値的解析(左の赤い部分が最も尖っている部分、右はどの程度尖っているか数値化している) 円錐角膜症例(青矢印の部分が尖っている)





ご報告



入院児童等患者家族宿泊施設 「だんだんハウス」の状況について

小児患者さんを抱えるご家族にとって、長期化する入院に付き添う際の精神的・経済的負担は重いものであり、小児患者さんの受入れが増加している当院では、これらを軽減することが求められてきました。

このたび、国及び島根県から患者家族宿泊施設の新設に係る交付金の助成を受け、施設は3月末に竣工し、4月17日より「だんだんハウス」として利用者の受入れを開始しました。

宿泊室は5室（洋室3室（うち1室は車イス対応）、和室2室）であり、ユニットバスやテレビ・冷蔵庫・掃除機等を備え、利用料金は1室1泊あたり890円または1,080円としています。

宿泊室の他には、自由に利用できるキッチン、積み木・ままごとセットや絵本等を備えた多目的室や衣類乾燥機を含む洗濯室があります。「だんだんハウス」は、開所間もない時期であり、玩具等は十分ではありませんが、今後の利用状況や利用者のご要望を取り入れ、拡充を図ってまいります。



2017/05/15 14:23



ご報告



「看護の日」の催しを開催しました

看護部 部長 神田 真理子
かんだ まりこ

5月12日はナイチンゲールの誕生日で「看護の日」に制定されており、12日を含む週の日曜日から土曜日までが「看護週間」です。これは、国民の間に看護の心・助け合いの心が育つように、1991年から実施されています。今年は、「看護の心をみんなの心に」というテーマで、当院でも看護部主催で5月11日（木）に、病院内来1階待合ホールを使用し、昼と夜の2部構成で催しを行いました。

昼の部は、緩和ケア認定看護師が中心となり、患者さんやご家族の方にハンドマッサージを行いました。5種類のアロマから好みの香りを選びマッサージを受け、気持ちがよかったと好評でした。時間は一人10分程度でしたが、マッサージを受けながら色々話も聞いてもらえてよかったとの声もありました。

夜の部は、「看護職員による小さな音楽会」を開催しました。ハンドベルや、テレビで人気のあった曲「恋」に合わせたダンスや、ピアノやギターに合わせて、男性・女性の合唱を披露し、入院患者さんやご家族の方と一緒に楽しいひと時を過ごすことが出来ました。患者さんや病院職員が100人以上集まり、賑やかな音楽会になりました。





島大病院ニュース 2017年6月

ご報告

ベストティーチャーPaauw教授による 医学教育を提供していただきました

おにがた かずみち
卒後臨床研修センター センター長 鬼形 和道

今年もWashington大学(Seattle, WA)の総合内科医Paauw教授が来学され、医学生、研修医、そして医療スタッフに質の高い医学教育を熱く提供していただきました。

医学部4年生に対してはチュートリアル教育の中で臨床リウマチ学の講義を、医学部5年生と6年生の有志とのセッションでは学生らが用意したケースを中心に臨床推論を熱くサポートいただきました。初期研修医に対しては抗菌薬ワークショップ(様々な背景を持つ患者さんに対する抗菌薬選択)を開催、初期研修医を指導する指導医会および学内FDでは医学教育のポイント(医学生および研修医へのフィードバックを中心に)を教授いただきました。

北米ベストティーチャー賞を2度受賞されたPaauw教授による指導を受けた医学生および医療スタッフは、本学部の医学教育を牽引してゆくことでしょう。



今年も伝説の男がやってくる・・・
Case Study with Dr. Paauw

実症例を紐解きながら一緒に臨床医学の楽しさを学ぼう▼
対象：全学年(昨年は新1年生も参加する人気の高さ)
日時：4月18日(火曜日)18:00～(途中入室・途中退室自由)
場所：みらい棟4階ギャラキシー
主催：卒後臨床研修センター
学生担当：医学科6年 沼野 長野一参加希望はこちらまで



島大病院ニュース 2017年6月

お知らせ



医師会・歯科医師会会員の方対象の 人間ドックの実施について

ながい あつし
臨床検査科 診療科長 長井 篤

今年も医師会・歯科医師会会員の方対象に休日ドックを行います。普段から多忙な先生方には、休日を利用して健康チェックをして頂く良い機会です。受検予定日を先生のカレンダーに入れて頂きますようお願いいたします。

昨年度も多数の方に当院休日ドックを受検頂いており、病院職員も先生方への貢献ができていと感じられるようになりました。臨床検査科、放射線科、光学医療診療部、産科婦人科、眼科の専門医・スタッフが、当院の最新鋭の機器を活用して、先生方の健康を守るべく万全の診療体制を整えております。



今年の実施日

6月4日(日)、7月23日(日)、11月19日(日)の3日間です

ファックスにて申し込みください。すべての検査が最短の待ち時間で受検できるよう、時間配分をして、会員の先生方がスムーズに心地よく受検して頂く事を目標に、また、基本項目を省略し、オプション項目のみでの受検も可能です。さらに、女性の方には女性医師が診察を行います。

また、当日は当院スタッフ(写真)が丁寧に説明・誘導を行います。今年、婦人科ドックも新設しましたので、受検ください。また、MRIは最新スペックの機器を導入したことで、小さな病変まで検出可能です。

ドックの検査項目と内容は、島根大学医学部附属病院臨床検査科案内(<http://hdrs.med.shimane-u.ac.jp/>) → (左バナー) 検査項目一覧から参照ください。よろしくお祈りいたします。

問合せ先 臨床検査科 TEL & FAX 0853-20-2559



平成29年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年6月

お知らせ



文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業 「地方と都会のライフイノベーション」 トゥワイライトセミナーについて

地域医療政策学講座・教授
プログラム・コーディネータ
ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

文部科学省事業「地方と都会のライフイノベーション」プログラムは、最終年度を迎えました。本プログラムの目的は、近未来の超高齢者社会において安全で質の高い医療やケアを提供できる、リサーチマインドをもった総合診療医や医療スタッフの養成です。

そこで、本プログラムでは、医療従事者の利便性を考慮し、TV会議システムを通じて、地域の関連施設で受講できるよう、毎週火曜日18時から、附属病院みらい棟4階ギャラクシーで実施される「トゥワイライトセミナー」を配信してきました。医療従事者ばかりでなく、学外の大学教員、行政職、弁護士などの講師により、また総合診療およびリサーチマインドに関するもの等、地域包括ケアに不可欠な内容で、好評を得てきました。

今年度は、最終年度もあって、これまでの講義内容をよりブラッシュアップし、一コマの講義について、単独の講師ばかりでなく、医師と療法士、栄養士、看護師、ソーシャルワーカーなど複数の職種のさまざまな組み合わせによる内容を盛り込むことでたくさんの方のニーズに応えたいと考えています。

なお、受講料は必要ありませんが、受講には、本プログラムの地域包括ケア連携人材養成コース、または、総合診療医・内科総合医育成コースに登録していただくことが必要です。また、大学院のニーズの高い「医療管理学」や「医療経営学」の講義は、医学部基礎研究棟6階セミナー室で開催いたします。

そのほか、今年度も種々の講演会やセミナー等も準備しています。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

問合せ先

島根大学医学部附属病院
卒後臨床研修センター・コンソーシアムステーション

TEL 0853-20-2006

島根大学医学部地域医療政策学講座

TEL 0853-20-2128

講座一覧は裏面をご覧ください。



島大病院ニュース
2017年6月

お知らせ

■トゥワイライトセミナー開催日（予定）

開催日・時間	会場	講義内容	担当
H29.6.6(火) 18:00~19:30	みらい棟 4階 ギャラクシー	認知症に対する住環境整備のアイデア	リハビリテーション部 療法士長 江草 典政
		がん患者に対する リハビリテーション	リハビリテーション部 主任理学療法士 道端 ゆう子
H29.6.13(火) 18:00~19:30		栄養と摂食 地域支援における作業療法 - 神経難病の視点から -	リハビリテーション部 助教 夢沼 拓 主任作業療法士 森脇 繁登
H29.7.4(火) 18:00~19:30		地域包括ケアに向けた在宅医療・介護連携等について	出雲市健康福祉部医療介護連携課 課長 森口 修三 地域包括ケア支援センター
H29.7.11(火) 18:00~19:30		「医療経済学」島根県における医療行政の実情	島根県健康福祉部 医療政策課 医療専門員 片岡 大輔
H29.8.1(火) 18:00~19:30		認知症の診断と治療	神経内科 学内講師 三瀬 真悟 認知症疾患医療センター 看護師 若槻 律子 医療技術職員 黒田 陽子
H29.8.29(火) 18:00~19:30		子供の在宅はやりがいと楽しみがある	小児科 教授 竹谷 健 リハビリテーション部 主任理学療法士 道端 ゆう子
H29.9.5(火) 18:00~19:30		地域包括ケアにおける食事栄養支援 - 邑智郡での取り組み -	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 院長 加藤 節司 職員1名
H29.9.12(火) 18:00~19:30		我がまちの地域包括ケア構築を目指して ~認知症ケアと看取りの文化~	医療法人 橋井堂 津和野共存病院 副院長 飯島 猷一 職員1名
H29.10.3(火) 18:00~19:30		地域包括ケアシステムにおける 医療ソーシャルワーカーの役割	地域医療連携センター 医療ソーシャルワーカー 春日 みゆき
H29.10.10(火) 18:00~19:30		認知症の地域包括ケアと認知症専門外来	神経内科 助教 安部 哲史
		パーキンソン病の地域支援における専門医の取り組み	神経内科 講師 小黒 浩明
H29.11.7(火) 18:00~19:30		脳卒中後の痙縮管理 ~ADL・QOLの低下を防ぐためにできること~	リハビリテーション部 副部長 酒井 康生
H29.11.21(火) 18:00~19:30		地域包括ケアにおける在宅看取りを考える~PCAポンプにて 本人には症状緩和を、家族には安心と休養をサポート!~ 「出雲モデル」2年間の取り組み報告から	島根県立中央病院 総合診療科 部長 今田 敏宏 職員1名
H29.12.5(火) 18:00~19:30	地域包括ケアにおける津和野共存病院の取り組み	医療法人 橋井堂 津和野共存病院 院長 須山 信夫 職員1名	
H29.12.12(火) 18:00~19:30	リハビリテーションのリスク管理	リハビリテーション部 部長 馬庭 壯吉	

問合せ先

島根大学医学部附属病院
卒後臨床研修センター・コンソーシアムステーション

TEL 0853-20-2006

島根大学医学部地域医療政策学講座

TEL 0853-20-2128



平成29年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

造血細胞移植後フォローアップ外来を開設しました

腫瘍・血液内科 助教 たかはし つとむ
高橋 勉

造血細胞移植は白血病やリンパ腫などの血液疾患に実施されていますが、もともとの病気が治っても、移植片対宿主病などの様々な副作用のために長期間に亘って専門的な診療が必要になることがあります。

平成29年1月より造血細胞移植後の患者さんを対象にした専門外来(造血細胞移植後フォローアップ外来)を開設しています。中四国地域でこの専門外来を設置している病院はまだ少ない状況です。

日本造血細胞移植学会に認定された医師、看護師が診療し、院内の各部署と連携して、移植後の様々な副作用に対処し、患者さんの生活の質の向上を目指しています。毎週木曜日に内科外来で実施しています。

通常の保険診療の適応になっておりますが、月1回「移植後患者指導管理料」を頂きます。当院以外で造血細胞移植を受けた方でも診療いたしますので、お問い合わせください。



問合せ先 内科外来 TEL: 0853-20-2381



<お知らせ>

重度糖尿病性腎症に対する先進医療A37「LDLアフェレシス療法」について

島根大学医学部附属病院 腎臓内科では、2015年10月より糖尿病性腎症に対する先進医療「LDLアフェレシス療法」の実施が可能です。本先進医療は早期の保険収載を目指して実施しています。つきましては、以下の基準に合致する患者さんの紹介をお願いします。

連絡先：島根大学医学部附属病院 腎臓内科

TEL：0853-20-2122

Mail：tito@med.shimane-u.ac.jp

選択基準（登録前3カ月以内の連続する2ポイント以上の測定）

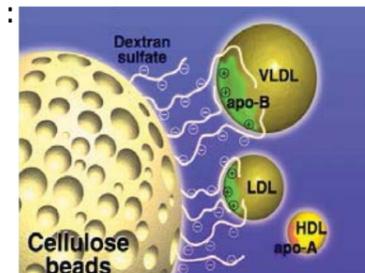
- 尿蛋白/尿クレアチニン比が3.0 g/g Cr以上
- 血清クレアチニン値が2 mg/dL未満
- 薬物治療下で血清LDL-コレステロールが120 mg/dL以上
- 20歳から75歳まで

除外基準（抜粋）

- 増殖糖尿病網膜症ではない（新福田分類B IからB V。但し、B Iのうち、眼科医により臨床的に安定していると判断される場合は除く）

<LDLアフェレシス療法とは>

- 原理：血漿分離し、血漿中のLDLをデキストラン硫酸をリガンドとする担体に吸着し選択除去する。
- 医療機器：リポソーバー®（デキストラン硫酸カラム：吸着型血漿浄化器）
- 特長：



- ▶ LDL, VLDL, Lp(a)に対し、高い選択的吸着能を有している。
- ▶ HDLはほとんど減少しない。
- ▶ 脂質以外の液性因子の除去（論文報告）
- ▶ アルブミン等の主要な血漿蛋白質にほとんど影響を与えない。

<先進医療として承認された科学的根拠>

これまでの研究により、LDLアフェレシス治療による腎機能悪化の抑制効果が示唆されています。代表例を以下に示します。

- 尿蛋白が3g/day以上の糖尿病性腎症患者さんのうち、LDLアフェレシスを実施した20人と実施しなかった55人の死亡・腎不全率を調査した。
- **LDLアフェレシスを実施した集団の発生率が統計学的に有意に低かった（右図の赤線）。**

(Sato E, et al. Diabetes Res Clin Pract. 2014 Sep 3. 一部改変)

